

## 登校拒否・不登校問題

# 「第24回全国のつどいin長崎」

## 実行委員会ニュース N03

第24回全国のつどいin長崎実行委員会事務局発行

【事務局連絡先】特定非営利活動法人フリースペースふきのとう

〒857-0874 佐世保市京坪町8-1

TEL 0956-25-6222 FAX 0956-76-8131



## 私たちが望むつどいのあり方を語り合い…

2019年4月21日（日）、汗ばむ陽気の春の日に、第3回実行委員会を開催しました。今回も東京、埼玉、京都、滋賀、大阪、佐賀、熊本、そして長崎県内離島からの参加も含め、60名の実行委員が集いました。



### 実行委員長あいさつ♪

毎回熱心に集まっていたいただきありがとうございます。今、ひきこもりに関して全国的な話題となっており、不登校問題がテーマの全国のつどいも注目されていると思いますが、それに囚われすぎることなく、今まで通りのつどいが続けられるといいと思います。そのためにはオープンな話し合いが必要だし、自由な発言が大切だと思います。

### 自己紹介♪

初めて参加された方がわが子の状況を話された後、「どこでもは話せない、ここだから話せる、こんな場が本当に必要ですね」と語られました。また、ご自身が人との縁でつどいにつながる事ができたので、今度はつなげる力になりたい、と語られた方もおられました。「子どもを支えようとしてきたけど、いつの間にか私が支えられ、学ばせてもらっている」「親にとっても、居場所があるのはありがたいな、と思いました」「年を重ねた今『本当の自分ってなんだろう』という旅をしている」等、様々な親の思いが語られました。青年からは「おやすみとおはよう」のサイクル、という話題がでました。「おやすみ」の言葉からは愛情を感じ、「おはよう」からは新しいエネルギーを感じる。きつい日々の繰り返しがあって今がある—そう語る彼の感性がとても素敵でした。

## <第3回実行委員会で決まったこと・話し合ったこと>

### キャッチフレーズ♪

前回、『西海』と『再会』をかける」という話がでたが、今回初めて参加の方もいる。西海の読み方がわからない、ということについては、わからないままにしておいて、それを話題にしてもらう。このキャッチフレーズにこめた思いなどは速報で知らせてもらったかどうか、という事務局での話し合いのもと

「そのままにつながろう」西海の地 させばへ

が、提案され、承認されました。

### 記念講演♪

事務局提案：松崎運之助さん

提案理由：松崎さんは長崎にゆかりのある方で、柔らかく穏やかな話をしていただける。子どもが大人になる道筋をお話しいただくことで、その後の分科会、基礎講座に生かされると思う。

立花高校校長、斎藤さんの話も聞いてみたい、せっかく九州でつどいがあるのだから九州の方をお願いするのもいいのではないかと、という会場からの発言をきっかけに意見が交わされました。松崎運之助さんには第15回埼玉でのつどいの記念講演をお願いした経緯があり、当時の事務局長鳥羽さんから、その時決め手となった「本当の学びというのは、ひとりじめしたくなくなるんだよ。みんなで分かち合いたくなくなるんだよ。」という松崎さんの言葉が紹介されました。

その後、松崎さんに講演をお願いすることが拍手で承認されました。

### 分科会♪

前年通りの12の分科会と特設分科会

特設分科会は要項たたき台では「8050を考える分科会」となっていますが「8050」という文言について、また分科会紹介文についても様々な意見が出されました。

○紹介文の「恐ろしい時代～」は変えたほうがいいのでは？

○「8050」ではなく「ひきこもり」を考える、の方が良い。

○「8050」に関しては大きな深刻な問題で、この会でやれる問題ではない。

○ひきこもりの子どもを持つ親たちが語り合う場でいいのでは？

- 要項たたき台の紹介文では、ひきこもりが問題だと言われているようだ。  
不登校・ひきこもりが問題なのではない。
- これまで私たちは、安心して不登校・ひきこもりができる、ということを大切にしてきた。この紹介文では、わが子の不登校で悩んでいる親に、今何とかしなければ大変なことになる、という不安を与えかねない。
- 「8050」は私たち自身が使うべき言葉ではないと思う。
- つどいがスタートした原点をぶらさないことが大事。つどいは、悩む親や子が苦しみの拳句に作り出したもの。「8050」は社会的政治的な大きな問題であるが、むやみに危機感をあおられ振り回されずに大事なことを押さえていった方がいい。必死で今を生きている人たちがつながり、つなげてきたつどいの原点を大切にしてほしい。それを手放すとつどいの魅力がなくなってしまう。
- 学校では不登校の子の親を指導すべき、という風潮もあるが、親は親の力で気づき学んでいく、交流の中で支えあっていく、主体者として生きていく存在、である。
- 「ひきこもりを考える」より「語り合う」のほうがいいと思う。

## 名義後援♪

事務局より：前回お願いしたところに再度お願いする予定。  
他にあったら教えてください。

## 今後の予定♪

- 第4回実行委員会 5月26日(日) アルカス SASEBO 第3会議室
  - 第5回実行委員会 6月30日(日) アルカス SASEBO 第3会議室
  - 第6回実行委員会 7月28日(日) 九十九島ベイサイドホテル&リゾート  
フラッグス(つどい会場)
- (時間はいずれも13:00~17:00)

## その他♪

- 分科会では、実践を持ち寄る形なのか。
- 分科会は言いつばなし、聞きつばなしでやってきた。何かを決議しない。今を一生懸命生きるその命を聞く、みんなでひたすら聞きあう。
- 分科会は親の会のような感じ。それぞれの分科会に世話人が入り役割分担して進める。ミニ講座をやろうと思えばそうなることもある。その年その年で話し合いながら作っていく。

## 参加者の感想より♪



分科会の文言の一つ一つこだわって作ってこられて今があるということが改めてわかりました。報道にのせられないよう、自分でしっかり考えることの大切さを感じました。



「8050」問題をきっかけに話が深まって良かったと思います。「つどい」の立ち位置を考える機会になりました。

自己紹介の時間をゆっくり確保されるのは、とても良いと思いますが、せっかくの会議なので、皆さんが最後まで参加できるよう終了時間は守るようにした方がよいと思います。



長年、このつどいに関わってこられた方々のご意見は、文言の一つ一つにも深く心を寄せて、軸足がぶれずにごさうございました。それこそが、とても大事なのだと改めて感じました。



特設のタイトルは⑥のように前向きなものにしてほしい。ひきこもりを語りあうも良いですが、「ともに生きる」や「～に向かって」などのような言葉が欲しい。



## 第4回実行委員会のご案内♪

日時：**5月26日（日）13：00～17：00**

場所：**アルカス SASEBO 3F 大会議室**

佐世保市三浦町2-3 TEL0956-42-1111

交通アクセス：

JR 佐世保駅から徒歩5分

西九州自動車道させぼみなとインターから車で5分

実行委員会終了後の交流会にも  
どうぞご参加ください♪

